

年 組 名前：

# シャイン栽培ロボ開発へ会合 27年度実用化めざす

山梨大や県などは6日、シャインマスカットの栽培を支援するロボットの開発作業を巡り、関係団体と会合を開いた。摘粒や房づくりなどを自動で行うロボットの開発を進め、2027年度の実用化を目指すことなどを確認した。会合には、開発を進める産学官による団体「人間・ロボット協働型シャインマスカット栽培体系構築コンソーシアム」の構成団体の代表者らが出席。山梨大の島田真路学長は「生産者の高齢化と労働人口の減少に伴い作業の効率化が課題になっている。世界で類を見ないAI（人工知能）ブドウ栽培ロボットの開発を成功させ、スマート農業や地域の発展につなげられるように学内でも支援体制を一層強化していきたい」とあいさつした。

山梨大の茅暁陽副学長が、開発を進めているロボットについて説明。農場を移動し、アームを伸ばしてブドウの花や粒を切り落とす作業を自動で行うことができ、導入で全栽培工程の作業時間を約25%削減できるとした。24年度中に試作品を完成させ、25、26年度に実証実験を実施する。長崎幸太郎知事は会合で、「技術が実用化されれば、(シャインマスカットの)さらなる生産拡大が期待でき、農家の所得の向上にもつながる。県としても最大限力を投入していきたい」と話した。

〈山本昂輝〉

(2022年7月7日付 山梨日日新聞7面)

問1 シャインマスカットの栽培を支援するロボットに、どのような作業をさせたいと計画していますか。

.....

問2 なにがきっかけとなり、このロボットの開発を進めたのですか。

.....

問3 この技術が実用化となれば、どのような効果が期待できますか。

.....

.....